「神の豊かな恵みと応答」ヘブル１０：１－２０　　１８・１０・７

序：ヘブル人への手紙では、旧約の祭司やいけにえの不十分さとイエス様の贖いの完全さが何度も繰り返される。その教え、内容の重要さを示す。

Ⅰ　旧約時代のいけにえの限界。：１－４

「律法には来たるべき良きもの（真の赦し、救い）の影はあっても、その実物（本物）はありません。ですから律法は、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって神に近づく人々を、完全にすることができません。それができたのなら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずです。ところがむしろ、これらのいけにえによって罪が年ごとに思い出されるのです。雄牛と雄やぎの血は罪を除くことができないからです」：１－４。

Ⅱ　神の豊かな恵み。：５－２０

１．「ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。

『あなたは（父なる神）、いけにえやささげ物を
お求めにならないで、
わたし（御子キリスト）に、からだを備えてくださいました（クリスマスの受肉。神であるキリストが、私達の罪の為に十字架で血を流し死ぬ為に、肉体を持つ人間となられた。感謝します）。
全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物を
あなたは、お喜びにはなりませんでした（聖なる神の義を満足させる事は出来なかった。民の罪の償いとしては不完全だった）。
そのとき、わたし（御子キリスト）は申しました。
「今、わたし（御子キリスト）はここに来ております。
巻物の書にわたし（御子キリスト）のことが書いてあります。
神よ、あなたのみこころを行うために（御子の従順）。」
…第二のもの（新しい契約）を立てるために、初めのもの（旧契約）を廃止されるのです。』：５－９。

キリストが、御父の御心に従い、自ら進んで、神であられるのに、体を備え、人となり（クリスマス）、私達の罪の為に十字架で死なれた恵みを心から感謝します。

２．「このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだが、ただ一度だけ献げられた（主の十字架の死）ことにより、私たちは聖なるものとされています（主を信じている私達は、主の十字架の血で聖められ、罪が完全に赦されている。今も、主の十字架の血と御聖霊と御言葉の力で聖められ続けている）」：１０

３．「さらに、祭司がみな、毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえを繰り返し献げても、それらは決して罪を除き去ることができませんが、キリストは、（私達の）罪のために一つのいけにえを献げた（主の十字架の死）後、永遠に神の右の座に着き、あとは、敵（この世の罪の勢力）がご自分の足台とされるのを待っておられます」：１１－１３

４．「なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々（主を信じている私達）を、一つのささげ物（私達の罪の為の主の十字架のいけにえの血）によって永遠に完成されたからです」：１４。

５．「『これらの日の後に、わたしが
彼らと結ぶ契約はこうである
―主のことば―
わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、
彼らの思いにこれを書き記す（神である聖霊の内住を通して）』
と言った後で、

『わたしは、もはや
彼らの罪と不法を思い出さない』（主を信じ、自分の罪を正直に神に告白する私達の罪と不法を思い出さない、完全に赦して下さる）と言われるからです」：１６，１７。

６．「罪と不法が赦されるところでは、もう罪のきよめのささげ物はいりません」：１８。
主の十字架の血のささげ物は、完全なので、もはや、罪の為のささげ物が繰り返される事は、あり得ない。

Ⅱ　先行する神の恵みへの私達の応答。
：１９の「こういうわけで」＝こんなに神の恵みがあるのですからの意。ローマ１２：１と同じ。

１．「こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所（神が臨在される所）に入ることができます」：１９。

２．「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました」：２０
→主イエスの血への全き信頼をもって、大胆に真心からまことの聖所、神に近づける。
①神に近づくとは＝神を信じる事、神を礼拝する事、罪を犯して、もう駄目だと思っても、主の十字架の完全な恵みに頼り、正直に罪を告白する祈り。神と親しく交わる祈り。
②：１９の「聖所」＝神が臨在される所。私達が主の御名によって祈る時、天の神に地上で私達が祈る祈りが、主の十字架の恵みで神に届く。そういう意味で、天が聖所、神の臨在の場所であると同時に、私達が祈る場所も、まことの聖所、神の臨在の場となる。
③「イエスはご自分の肉体（主の十字架の血、死という尊い犠牲）という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました」：20。
「イエスは再び大声で叫んで霊を渡された（十字架で私達の罪の為に死なれた）。すると見よ、神殿の幕（聖所と至聖所を仕切る垂れ幕）が上から下まで真っ二つに裂けた」マタイ２７：５０，５１。
旧約時代は、年に一度だけ、それも大祭司しか、至聖所（神の臨在）に入れなかった。
しかし、主イエスが、全人類の罪の為に十字架で尊い血のいけにえをささげ死なれた時、神殿の聖所と至聖所を仕切る垂れ幕が裂けるという奇蹟が起きたのは、次の恵みを示していた。
それは、年に一度だけ、それも民の代表の大祭司だけが至聖所、神に近づけた時代が終わった事、主の十字架による贖いの完成の後は、大祭司を通してではなく、誰でも主を信じる人は、主の十字架の恵みを通して、主の御名を通して、神に近づく事が可能になった恵みを示している。
ハレルヤ！
「イエスは彼に言われた。『わたしが道（神に近づく新しい道）であり、真理（神がどのような方かを示す方）であり、いのち（永遠の命を与える方）なのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」ヨハネ１４：６。

感謝します。
主の十字架の恵みにより、今は、多くの儀式、大祭司を通してではなく、主イエス様を通して、いつでも偉大で、聖く、愛深い神に近づき祈れる事、悩みが深い時も、罪を犯した時も、主の恵みの故に、神に祈り拠り頼み、罪の赦し、悩みがあっても前向きに生きる力をいただける恵みを感謝します！